せんだい普及センターだより

BLOSSOM

Vol.76

令和3年2月26日発行

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505　仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
ＴＥＬ 022-275-8320（地域農業班）　ＦＡＸ 022-275-0296（共通）
022-275-8410（先進技術第一班）　E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp
022-275-8374（先進技術第二班）　ＵＲＬ http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/ →

プロジェクト活動の実績について

普及センターの活動紹介

農作業事故の防止について

■経営承継計画策定に向けた話し合い（大郷町　みどりあーと山崎株式会社）

新たな計画で活動展開！

コロナ禍でも活動継続

今年の冬は，例年にない厳しい冷え込みと積雪の対応に追われました。また，昨年からの新型コロナウイルス感染症がさらに拡大するなど，農業者の皆様には感染対策を講じながら事業継続いただいていることに感謝申し上げます。当普及センターでは昨年からリモートでの活動を導入し，野菜の技術検討会のほか，WEBでの外部講師研修会などを行ってきました。コロナ禍での安全策として，また効率化の面でも活用頻度は今後増えていくものと思っております。

新たな計画のスタート

さて，今年は東日本大震災から10年が経過し，節目の年を迎えています。宮城県では新たな県政運営の指針である「新・宮城の将来ビジョン」，その農業分野の個別計画である「みやぎ食と農の県民条例」の改訂を行っています。県民条例では「**共創力強化～多様な人材が豊かな未来をつくるみやぎの食と農～**」を将来像のキャッチフレーズとして掲げ，「農業者だけではなく，食と農に関わるすべての人材が結びつき未来を共に創っていく」としております。当普及センターの新計画では「**技術と知恵で明日に継ぐ仙台農業**」をキャッチフレーズに，園芸やアグリテックの推進，持続的な地域振興，経営承継に向けた支援など，微力ではありますが，皆様とともに活動に取り組んでまいります。

仙台農業改良普及センター
技術次長（総括担当）　宮本　晴恵

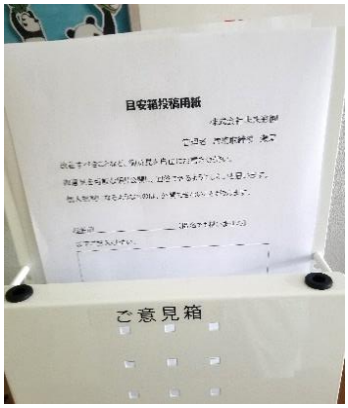
プロジェクト活動の実績について（完了課題）

ＧＡＰを活用した現場力の向上
対象：株式会社未来彩園（大衡村）（平成31～令和2年度）

大衡村の株式会社未来彩園はトマトの養液栽培を行っており，平成30年１月に取得したASIA GAP認証を契機に，パート社員を含めた全社員が意欲的に現場改善活動に参加し，活動が定着するための取組が行われています。普及センターは令和元年から2ヵ年にわたって，GAPの意義や取組内容への理解を深めるため，パートリーダーに対する勉強会の他，全社員を対象にした研修会，作業班毎のワークショップ開催等を支援しました。これらの活動を通して社員のGAPへの理解が深まった結果，作業工程の再確認等により，作業ミスを減らすための掲示物の作成や，経営者へ改善を提案するための「ご意見箱」が設置され，その**提案からの作業環境改善**につながりました。

昨年，全社員を対象に実施したGAPに関するアンケート調査では，同社でGAPに取り組んでいることは知っていても，その内容について理解していたのは社員の半数のみであったことが明らかとなり，新入社員をはじめとして**社内全体にGAP教育が行き渡る体制づくり**が必要と考えられます。普及センターではこれらの活動が定着し，さらに活発となるよう引き続き支援していきます。

社内ＧＡＰ研修会



「ご意見箱」の設置

空調服導入による作業環境改善

６次産業部門の改善による経営力の向上
対象：農事組合法人仙台イーストカントリー（仙台市）（平成31～令和2年度）

普及センターは農事組合法人仙台イーストカントリーの６次産業部門（農産加工施設及びおにぎり茶屋）の経営力向上を図り，持続的な経営が行えるように支援をしました。

具体的には，作成した販売実績管理表（販売先別，商品別）などを活用し，月次での計画と実績の差異分析と改善活動の検討を支援しました。また，専門家を活用しながらHACCPの考え方を取り入れた衛生管理に基づく取組の点検作業を支援しました。

支援の結果，対象者は早期に販売先毎の状況把握ができるようになり，販売計画達成に向けて販売商品や納品量の調整，新たな販売先の拡大など，改善活動が積極的に行われるようになりました。また，販売先の拡大による製造量の増加に対して，作業計画や製造工程の改善を進め，商品の安全性を第一に，**人と設備を最大限に活用した経営**を行うようになりました。

販売実績の把握・分析・改善支援

専門家による衛生管理計画の点検

製造工程のリスク分析支援

省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上

対象：みどりあーと山崎株式会社（大郷町）（平成30～令和2年度）

大郷町のみどりあーと山崎株式会社は平成28年に法人化し，経営面積100haで水稲と大豆を生産しています。農地中間管理事業により水稲は作付面積が拡大し，移植栽培での対応が限界になりつつあります。また，大豆はブロックローテーションのため土壌条件に対応した肥培管理が難しく収量が低迷していました。さらに，法人化したものの経営ビジョン等が未整備であったため，会社の将来の姿が見えにくい状況の中，令和5年に社内で経営承継が計画されていました。

普及センターではこれらの課題を解決するため，平成30年度から3年間，①水稲湛水直播栽培技術の定着，②大豆の収量向上，③経営ビジョン等の作成と実践を支援しました。

①については，作業チェックリストの活用や生育調査等を通した実践的な技術支援を行うとともに，作の振り返り検討会で課題の明確化に取り組みました。その結果，**適切な栽培管理等の技術力が向上**し，令和2年度の単収は462kg/10aと，目標の450kg/10aを達成しました。

②については，**土壌分析に基づく土づくり等が実践**されるようになりました。

③については，経営ビジョンや経営計画等が作成され，**法人が目指す方向や目標が明確化**されました。さらに経営ビジョンの実践の一つ「経営承継」に関しては，専門家派遣による勉強会（5回）を開催した結果，役員と社員の間で会社の強みや栽培技術のノウハウなど「見えない財産」が共有され，経営承継計画へと繋がり，**円滑な承継の準備が前進**しました。

技術の定着支援

土壌分析結果に基づいた土づくり

経営承継勉強会

普及センター活動の紹介

水稲乾田直播栽培の取組を推進します

水稲の大規模法人等では，育苗・田植作業の労力増加，作期の集中，他部門との労力競合などの問題を解決するため，水稲直播栽培が導入されています。当普及センター管内の令和2年度直播栽培面積は306haで，水稲作付面積全体に占める割合は４％です。その中でもより低コスト化が図られる乾田直播栽培が今，注目されています。

乾田直播栽培の方法としては，「広畝成形同時播種」「プラウ耕乾田直播」「不耕起V溝直播栽培」などがあり，管内では仙台東部地区を中心に「プラウ耕乾田直播」に取り組む経営体が多く見られます。また，革新的な「初冬直播栽培」に取り組み，昨年12月に令和3年産の播種作業が終了した法人もあります。

普及センターでは，所得拡大及び経営の大規模化に対応した省力・低コスト稲作の実施に向けて，令和3年度普及活動計画において**乾田直播栽培の普及拡大**に取り組む計画です。土壌条件や法人経営に適した栽培方法の導入検討や，乾田直播展示ほの設置，勉強会や視察などを通して，栽培技術の向上・定着を支援し，乾田直播栽培の普及拡大を推進していきます。

初冬直播栽培（令和2年12月9日播種）

みやぎ農業未来塾を開催しました

農業を担う青年農業者の育成のため，みやぎ農業未来塾を2回開催しました。

1月13日には，野菜の新規就農者等を対象にホップアップスクール「営農基礎講座」を開催しました。「野菜の作業計画を作ろう」をテーマに，参加者は畑ごとの作業実績を栽培暦に記入した後，反省点や改善点などを振り返りながら，普及員の助言を受けて今年の作業計画を作成しました。

2月1日には，新規就農者を含む若手農業者を対象にステップアップスクール「経営者養成講座」を開催しました。㈱宮城フラワーパートナーズ代表取締役の今野高氏から「成功への第一歩『ビジョンを磨く』」をテーマに，将来に向けた経営ビジョンについて講話をしていただきました。

参加者は，日々の作業記録や結果を振り返り，失敗した理由や改善点を今年の計画に反映させることの大事さや長期的な視点で**農業に対する夢を形にする**ことの重要性を痛感したようです。

「農業法人若手・中堅社員のための社会人基礎力ステップアップセミナー」を開催しました

普及センターでは昨年度に引き続き，**農業法人若手社員のスキルアップ**を目的として，仙台市及び公益財団法人みやぎ産業振興機構と共催で「農業法人若手・中堅社員のための社会人基礎力ステップアップセミナー」を開催しました。開催にあたり参加者の皆様には，マスク及びフェイスシールド，飛沫防止パネルの使用等により新型コロナウイルス感染症対策に御協力いただきました。

当セミナーは令和３年１月15日から全４回コースで開催し，当普及センター管内の８法人から22名の参加申し込みがありました。セミナーでは，組織の一員として求められる能力や法人の雇用管理等について，松倉社会保険労務士事務所の松倉惠子特定社会保険労務士，社会保険労務士法人プロゲート仙台オフィスの庄司弥生社会保険労務士，Universal Agriculture Support合同会社の金子栄治代表を講師に，講義とワークショップを行いました。第３回，第４回のセミナーでは，各法人の代表等にも参加していただき，社員の今後の取組に対する期待が高まったようでした。

農作業事故に要注意！！　～ 管内の実例 ～

仙台地方振興事務所管内では今年度２件の死亡事故と４件の負傷事故が報告されています。２件の死亡事故の経緯ですが，１件目はトラクター事故で，法面の下からホースで洗車中にトラクターが落下して下敷きになりました。２件目はコンバイン事故で田んぼで立ち往生した車体を数人で押している際にコンバインが暴走し横転して下敷きになりました。いずれも周りの状況確認やエンジンの停止を行っていれば未然に防げる事故だったと考えられます。

「いつもやっている方法だから」とか，「自分だけは大丈夫」と考えず，マニュアルに沿った点検整備やトラブルに対応してください。

４件の負傷事故を表１にまとめました。これ以外にも軽微な事故を含めると農作業事故の発生は多く，機械を操作している本人だけではなく，周りの方も注意を怠ることなく，安全で安心な農作業を心がけてください。

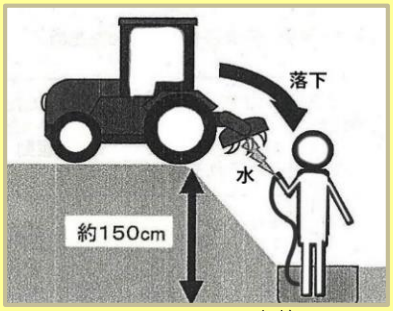


図1　トラクター事故

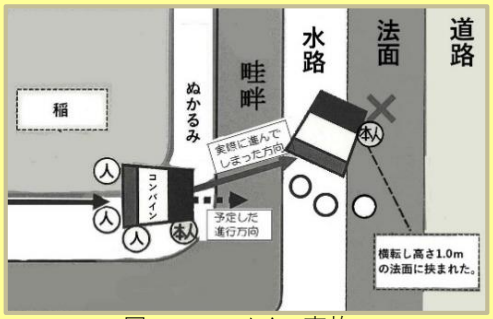


図2　コンバイン事故

表1　農作業事故による負傷者

負傷者	作業機	事故時の作業	負傷の程度
男性７３歳	草刈機	絡まった草を取ろうとした	手の裂傷(６針)
男性５９歳	草刈機	刈払中，足を絡ませ転倒した	肘の骨折
男性６８歳	ポンプホース	坂で点検中足を滑らせた	アキレス腱切断
男性７２歳	脱粒機	ベルトに手を挟まれた	外傷

この印刷物は1,000部発行し，1部当たりの経費は35円です。